

パーソナル・アシスタンス とも 通信

いっしょに生きる
楽しく生きる

四国から市議の皆様が

視察にいらっしゃいました。



「とも」は創設して
17年になります。創設
当初は障害福祉事業が

まだ措置と呼ばれていた頃で現在の様なサービスはなく、その制度がようやく生まれようとしているところでした。そのような時期に「共に生きる」と「24時間・365日のサービス」を掲げて産声をあげた「とも」には、当時から数年前までは毎年のように厚生労働省の障害福祉課の方たちや、時には局長までもが「とも」に訪れてくださいました。

一方で私自身も全国のいろいろな場所にお招きされ、「とも」の取り組みをお話をする機会を頂いてきました。近年は機会も少なくなってきましたが、同じ志や理念を持った仲間が全国にはたくさんいることを知り、励まされることばかりでした。

そのようなご縁もあって、先日四国から視察の方々がお見えになりました。私が驚いたのは、いらしたのが市議の皆様だけではなく教育部、保健福祉部長と行政の方も同行されていたことです。「とも」の事業の拠点を廻った後の意見交換会で、市議会議員の皆様と行政の方たちが率直に話し合う姿を見ながら、こうして同じものを見て議論することは大切なことだと改めて思いました。

浦安市障がい者等一時ケアセンターの緊急対応や身体障がい者福祉センターが行う医療的なケア、元行政センターを活用したほっぷ（地域活動支援センター）など、民間団体である私たちの発想を浦安市が認めてくださって運営している事業に、市議団の方たちが注目してくださったことは特に誇らしい事でした。

「とも」では支援は手段と考え、利用者にとっ

て必要なことに合わせた対応するという発想で事業を行ってきました。浦安は小さな土地に人が多く集まり活気がある反面、空いている土地がなかったり家賃が高かったりで事業者としては厳しいと思うこともありますが、今回の市議訪問を受けて、地域性は多様でそれぞれに浦安市にはない難しさがあり、それでも地域性を活かしながら利用者支援を続けるために知恵を絞ってみんなで協力していく姿はどこも一緒だと改めて思いました。

また来訪者のお一人から「どこの拠点に行っても職員さんたちが同じ思いを共有していることが伝わってきてすごいな、と思いましたよ」と感想を頂いたことで、とも職員一人一人が理念の実践につながっていることが改めて確認出来たことが嬉しく、ありがたい気持ちになりました。

全国にいる志を共有する皆さんと、これからも力を合わせて地域福祉を充実したものにしていきたいと、今回の訪問を受けて想いを強くなりました。

「とも」では今回HPをリニューアルしました。全国のいろいろな地域の方にも取り組みを知っていただき、交流することで、「共に生きる社会」に一步でも近づければ、と願っています。

西田良枝



<http://www.patomo.jp>

地域福祉と私

私が福祉に目を向けたのは、以前勤めていた会社に福祉部門があり、同僚から「ヘルパーの研修を受けるけど行かない？」の誘いに、簡単に「いいよ」と返事をしたのが始まりでした。その研修には現場実習があり、実習先はそれまで全く知らなかった介護老人保健施設でした。実習先の実態は想像以上に厳しく、隙間のないほどにベッドが並んでいて、ぼんやりと寝ている高齢者の姿に、自分の老後の将来が描けないくらいショックを受けました。

また、あるご縁から特例子会社で働き始めたとき、兄弟5人が全員障がいを持っているという家族に出会い、何故なんだろうと単純に思いました。しかし、介護に関わるご家族の献身的な姿勢や仲のよさに感銘を受けました。彼女の屈託のない明るさや仕事に取り組む前向きな態度に触れ、もっと早く福祉の仕事に身を置けばよかったと思うほど、この仕事に惹かれて行く自分を感じていました。

ともに入社して8年目の今年、強度行動障がいの研修を受けました。その時に、最初から強度行動

障がいがあるわけではなく、基礎にある発達障害がネガティブな経験を重ね、ストレスを受け、行動障がいに繋がっていくことを学びました。それを防ぐためには、子どもの頃からの関わり方が重要で、それによって将来が変わるという講師の言葉が強く印象に残っています。

専門的な知識を持つ方の関わりはもちろん、一貫した支援ができるチーム作りをし、他機関との連携を図るシステムを構築していく事が重要です。地域の中でどんな人も同じように自分らしく安心して暮らすために、より多くの市民の方に関心を持ってもらい、手を差し伸べてもらえたらと願っています。

これからも自分の目の前の出来事にしっかり関心を寄せて、誰もが地域の中で輝けるように、仲間と一緒に学び、進んでいきます。



相談支援事業所 ふあり U

法人からのお知らせ!!

とも HP がリニューアルしました!

7月7日、ともホームページがリニューアルしました。スマホにも対応したおしゃれで温かさのある、素敵なサイトに仕上がりました。是非ご覧ください。

<http://www.patomo.jp>



浦安市基幹相談支援センターが移転しました!

平成30年6月より、浦安市基幹相談支援センターは、浦安市まちづくり活動プラザにおいて事業を開始しました。基幹事業を行う専用の会議室も備えています。是非、お立ち寄りください。



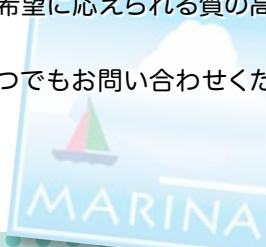
【住所】浦安市入船5丁目45番1号
(浦安市まちづくり活動プラザ内1階)
【電話】047-302-8822 (変更なし)
【FAX】047-304-8833 (変更になりました)

マリーナが多機能型事業所になりました

旧・放課後等デイサービスマリーナは2018年7月より児童発達支援事業も開始し、障がい児通所支援事業所として新たなスタートを切りました。今後は、従来からの集団でのプログラムに加え個別での言語療法にも力を入れ、利用されるお子さんやご家族のご希望に応えられる質の高い支援を提供して参ります。

ご不明な点等ございましたらいつでもお問い合わせください。

【住所】浦安市海楽1-3-9
【電話】047-304-8815



「日中一時支援事業所 もあ」 開所のお知らせ



2018年7月1日、日中一時支援事業所 もあ が開設いたしました。詳しくはお問い合わせください。

【住所】浦安市今川1-14-52
【電話】047-304-8861

自立支援協議会活動報告

今年度の自立支援協議会の取り組みは大きく二つあります。ひとつは浦安市障がい者福祉計画で示されている重点的な取り組みを推進し、障がい者福祉計画の進捗状況の確認と検証を行っていく事。もう一つは平成 32 年 4 月にオープンする地域生活支援拠点が、障がいのある人とその家族にとって、地域生活を継続する上で必要な機能が備わった仕組みとなるように地域課題を検証し、浦安ならではの地域生活支援拠点を創っていくことにあります。地域生活支援拠点とは、障がいの重度化、高齢化、親亡き後の備え、緊急時の対応、専門的人材の確保や養成などの機能を備えた仕組みのことです。

権利擁護、相談支援、地域生活支援、こども、本人部会と5つの部会での議論も始まっています。グループワークを取り入れる部会が増えていることが今年

度の特徴です。権利擁護部会では、障がい者福祉計画の推進として、自治会やこども会など地域の団体組織と障がい者団体等とは設定が少ないことから、「我が事・丸ごと」が浦安市でも実現できるように取り組みたいとの意見が出ています。

相談支援部会では事例集約を通じてサービス等利用計画の質の向上につなげ、地域ニーズを共有化していくことで、拠点に必要な機能を整理していくことや、平成 32 年までの具体的な短期目標に設定し、計画的に議論していく必要性を確認しました。

このほか地域生活支援部会では住まいについての検討、子ども部会では今後の議題を検討するグループワークを実施、本人部会では浦安市内の社会資源を訪問する活動を行いました。



ボディメカニクス研修を実施しています



ともでは職員に様々な形で学びの場を提供し、質の高い支援を目指しています。しかし、経験がない、あるいは少ない職員がいきなりレベルの高い支援にいたることは困難で、

基礎から順番に学んでいくことが必要になります。その基礎研修の一つが「ボディメカニクス研修」です。

ボディメカニクス (body mechanics) とは、「body= 身体」+「mechanics= 機械学」つまり、人間の身体を機械として考えたときの特徴を明らかにする学問のことです。人間の正常な運動機能は、神経系・骨格系・関節系・筋系とのかかわりで成り立っており、これらの相互関係を総称して「ボディメカニクス」といいます。介護においては、一般的に身体力学 (身体の動きのメカニズム) を活用した介護技術のことを指します。

法人の研修として行う目的は、「利用者への支援の質の向上」「支援職員自身の体を守る」「事務方であっても職務上の身体負荷を軽減できる知識を習得する」の主に3つです。そのことにより、職員の職

業人生の延長と利用者への良質で安定した支援を提供の継続に繋がります。

今年ともに入った職員は、直接支援職のみならず事務職も、法人の理学療法士からこの研修を受けています。受講した職員からは「日頃の介助でどれだけ自分の体に負担をかけているかわかった。」「重心、支持基底面を意識することで、体への負荷が大きく変わることがわかった。今後気をつけたい。」「事務職だが、ケアスタッフがどのように介助しているのか勉強になった。親の介護でも役に立ちそう。」「自分が正しい体の使い方をすることで、利用者さんも楽に動けることがわかった。」などの感想が聞かれています。

職員にとっても利用者さんにとっても安全で快適な介護や業務遂行ができるよう、基礎をしっかりと身につけようと、教える側も教わる側も一所懸命取り組んでいます。

S



